

都市ガス供給の事業基盤を整備・強化 基幹導管開通・地震対策の高度化を完了

京葉ガスは、都市ガスの需要増に対応し継続的かつ、安定して供給を行うために進めてきた、基幹導管「第二中央幹線」の敷設工事を終えるとともに、大規模地震発生時における、緊急・復旧対応の迅速化を可能とする「地震対策の高度化」作業を終えました。

1. 「第二中央幹線」の開通

「第二中央幹線」は、当社の基幹導管敷設プロジェクトとして、平成5年から建設を始め本年10月に全線(延長:51.8km、口径:600A)が開通。これにより、当社がガスをお届けしている地区の北端にある北柏供給所(柏市柏の葉)から、南端の浦安供給所(浦安市舞浜)が結ばれると同時に、主要なガス受入拠点である浦安供給所、沼南供給所(柏市大島田)および習志野ガバナステーション(習志野市茜浜)が中圧導管(※1)で結ばれました。

環境性に優れる天然ガスは今後の低炭素社会実現において、その重要性がこれまで以上に高まるものと考えられます。第二中央幹線の完成により当社は、増加する都市ガス需要にも対応し、安定して供給できる導管ネットワークを構築しました。

2. 地震対策の高度化

1) ガス供給停止区域(Mブロック)の細分化

大規模地震が発生した際、ガス漏れによる火災などの二次災害を防止するために低圧導管(※2)に設けているガス供給停止区域(Mブロック)を、これまでの12ブロックから36ブロックに細分化しました。

これにより、1ブロックあたりのお客さま件数は5~10万件から2~3万件となり、やむを得ず供給停止する場合でもその影響を最小限に抑えけるとともに、復旧に要する期間を短縮することが可能となります。

2) 地震計(SIセンサー)の更新

Mブロックの細分化作業と並行して進めてきた、整圧器(地区ガバナ)(※3)や供給所などに設置している地震計(SIセンサー)の更新作業も完了しました。約400カ所(これまでは47カ所)でSI値(※4)などの地震データの計測が可能となり、高密度な地震データの収集を実現しました。

(次頁につづく)



SIセンサーがSI値60カイン以上の地震を感知すると、地区ガバナを自動的に停止しガスの供給をストップします。(被害の状況などにより供給継続が難しいと判断される場合には遠隔操作による停止も可能)

さらに地震データには液状化情報も含まれ、高密度に収集された地震データを元に、これまで以上に細やかな被害状況の推定に役立てることができます。

「第二中央幹線の開通」「ガス供給停止区域(Mブロック)の細分化作業の終了」「地震計(SIセンサー)の更新」により、当社の都市ガス供給の事業基盤は大幅に整備・強化されました。

京葉ガスは、お客さまに便利にそして安心して都市ガスをお使いいただけるよう、今後も安定供給ならびに保安の確保に努めてまいります。

(※1) 供給圧力が0.3MPa以上1MPa未満(中圧A)または、0.1MPa以上0.3MPa未満(中圧B)の導管。

(※2) 供給圧力が0.1MPa未満の導管。

(※3) 高い圧力から低い圧力へ、ガスの消費量の増減にあわせて圧力を自動的にコントロールし、一定の圧力でガスを流す装置。約1km²に1基の割合で設置されている

(※4) SI値(単位:カイン=cm/sec) : 地震の揺れと建物被害との相関が高いとされている指標のひとつ。

